



令和5年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和5年2月14日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員社長室長 (氏名) 山田 秀樹

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 令和5年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第3四半期の連結業績(令和4年4月1日～令和4年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第3四半期	58,831	7.9	1,076	12.3	1,141	12.3	665	13.1
4年3月期第3四半期	54,500	7.8	1,226	8.5	1,301	8.9	766	5.1

(注) 包括利益 5年3月期第3四半期 674百万円 (27.2%) 4年3月期第3四半期 927百万円 (9.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第3四半期	70.73	
4年3月期第3四半期	81.40	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
5年3月期第3四半期	22,514	9,395	41.7	998.09
4年3月期	21,377	8,852	41.4	940.39

(参考) 自己資本 5年3月期第3四半期 9,395百万円 4年3月期 8,852百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年3月期		7.00		7.00	14.00
5年3月期		7.00			
5年3月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の連結業績予想(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	76,800	5.6	1,500	5.7	1,580	4.3	970	21.5	103.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年3月期3Q	10,833,000 株	4年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	5年3月期3Q	1,419,227 株	4年3月期	1,419,227 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年3月期3Q	9,413,773 株	4年3月期3Q	9,413,811 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、消費活動が徐々に正常化に向かい、景気の持ち直しが期待されるものの、不安定な国際情勢に伴い原材料及びエネルギー価格の高騰や為替相場の変動など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましても、業態を超えた競争が激化する中、相次ぐ値上げにより消費者の節約志向は高まりを見せており、光熱費の上昇や人件費関連コストの増加など厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは令和3年度より『IDEA & INNOVATIONで、新たな価値をつくる』を中期経営計画のテーマに掲げ、業務の効率化とデジタル面への取り組みを強化することにより、企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は588億31百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は10億76百万円（前年同期比12.3%減）、経常利益は11億41百万円（前年同期比12.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億65百万円（前年同期比13.1%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、新型コロナウイルス感染症による行動制限も緩和され、外出機会の増加を背景に内食需要は減退傾向にあり、集客数は減少傾向で推移しましたが、当社の特色である非生鮮部門の人気は根強く、引き続き好調に推移し、繁忙期となる年末商戦も一部で雪害の影響はあったものの、概ね順調に推移しました。また、一部店舗で店内サインエージを導入し、季節商品や期間限定のお知らせなどを、より視覚に訴える広告として活用いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は187億87百万円（前年同期比1.2%増）、セグメント利益は4億60百万円（前年同期比10.6%減）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、当社グループ独自の企画コーナーを設け、店舗ごとに独創性を持たせ、季節や時期に合わせた売場づくりに注力し、メディアで紹介された売れ筋商品の販売機会ロスの軽減に努めたこと、地域のお祭りやイベントなどが再開され、業者向けの需要が回復基調にあることや前年度に6店舗出店したことなどが大きく影響し、売上高は大幅に増加しました。

また、10月に「業務スーパー六日町店」（新潟県南魚沼市）と、子会社である㈱カワサキで「業務スーパー八代永碓町店」（熊本県八代市）の2店舗をオープンしました。これにより、当社グループの当第3四半期末の直営店舗数は76店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は296億56百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント利益は8億37百万円（前年同期比9.5%増）となりました。

(弁当給食事業)

事業所向け宅配弁当につきましては、品質の向上はもちろんのこと、原材料価格が上昇するなか、味や見栄えなどメニューの改変にも努め、魅力あるお弁当作りへの取り組みを続けております。しかしながら、中食との競合や喫食者ニーズの多様化により販売食数は減少しました。

惣菜等の受託製造を行っている千葉工場につきましては、年末の特売などを含め、取扱商品のアイテム数と受託先の販売店舗数が増加したことにより、売上高も大幅に増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は65億30百万円（前年同期比5.4%増）、セグメント利益は1億51百万円（前年同期比51.3%減）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、顧客情報を可視化するツールを全営業所に導入し、効率的な配達コースの編成と顧客開拓を行うとともに、地域別・世代別の人口比率を検証し、そのエリアの特徴を重視しながら営業活動を行いました。しかしながら、外食需要の回復に伴い新規顧客の獲得は伸び悩み、売上高は前年を割り込みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は35億11百万円（前年同期比3.2%減）、セグメント利益は1億3百万円（前年同期比32.8%減）となりました。

(旅館、その他事業)

旅館、その他事業につきましては、行動制限の緩和に伴い、全国自治体による旅行・宿泊割引キャンペーン等が実施され、10月には政府による全国旅行支援が開始されたことにより、延べ宿泊者数は前年比40.5%増加し、回復の兆しが見られましたが、外食需要も含めコロナ禍以前までの回復には至りませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は3億45百万円（前年同期比28.7%増）、セグメント損失は24百万円（前年同期はセグメント損失64百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ11億36百万円増加し、225億14百万円となりました。これは主に、現金及び預金が6億48百万円減少したものの、チャレンジャー巻店の移転に伴い建物が6億83百万円、商品が5億17百万円、売掛金が3億97百万円及び投資その他の資産のその他に含まれる差入保証金が1億18百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ5億93百万円増加し、131億18百万円となりました。これは主に、長期借入金が5億15百万円減少するものの、買掛金が9億79百万円増加したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億43百万円増加し、93億95百万円となりました。これは主に、利益剰余金が5億34百万円増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.3ポイント上昇し、41.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年5月13日の「令和4年3月期 決算短信」で公表いたしました連結及び個別の業績予想につきましては、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,622,205	2,973,362
売掛金	2,483,522	2,880,602
商品	1,848,974	2,366,012
原材料及び貯蔵品	150,155	212,630
その他	551,273	688,777
貸倒引当金	△1,762	△1,819
流動資産合計	8,654,370	9,119,565
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,186,258	5,934,164
土地	3,196,126	3,198,858
その他(純額)	1,462,331	1,374,223
有形固定資産合計	9,844,715	10,507,246
無形固定資産		
のれん	55,129	19,446
その他	255,812	251,897
無形固定資産合計	310,942	271,344
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	41,365	38,827
その他	2,528,324	2,579,620
貸倒引当金	△2,000	△2,009
投資その他の資産合計	2,567,689	2,616,438
固定資産合計	12,723,347	13,395,029
資産合計	21,377,718	22,514,595
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,162,054	5,142,039
1年内償還予定の社債	600,000	600,000
短期借入金	1,247,855	1,529,934
未払法人税等	326,935	84,431
賞与引当金	220,501	92,679
資産除去債務	33,859	34,927
その他	1,960,274	2,102,728
流動負債合計	8,551,480	9,586,741
固定負債		
長期借入金	2,002,008	1,486,212
リース債務	578,580	612,606
退職給付に係る負債	891	1,355
役員退職慰労引当金	184,030	160,750
資産除去債務	835,026	918,558
その他	373,095	352,607
固定負債合計	3,973,631	3,532,090
負債合計	12,525,111	13,118,831

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	8,461,348	8,995,439
自己株式	△1,169,721	△1,169,721
株主資本合計	8,460,119	8,994,209
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	415,039	416,708
退職給付に係る調整累計額	△22,552	△15,154
その他の包括利益累計額合計	392,486	401,554
純資産合計	8,852,606	9,395,763
負債純資産合計	21,377,718	22,514,595

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)
売上高	54,500,538	58,831,298
売上原価	41,854,001	45,637,569
売上総利益	12,646,537	13,193,729
販売費及び一般管理費	11,419,601	12,117,515
営業利益	1,226,936	1,076,213
営業外収益		
受取利息	11	14
受取配当金	3,128	728
受取家賃	25,330	28,552
受取機器使用料	17,847	19,610
その他	65,257	45,998
営業外収益合計	111,574	94,903
営業外費用		
支払利息	15,015	16,167
障害者雇用納付金	5,975	9,650
その他	16,179	3,484
営業外費用合計	37,169	29,301
経常利益	1,301,341	1,141,815
特別利益		
受取保険金	—	13,140
投資有価証券売却益	8,006	—
特別利益合計	8,006	13,140
特別損失		
固定資産除却損	16,581	38,599
災害による損失	—	40,175
減損損失	58,044	—
その他	2,898	2,178
特別損失合計	77,524	80,953
税金等調整前四半期純利益	1,231,823	1,074,002
法人税、住民税及び事業税	395,998	332,576
法人税等調整額	69,550	75,542
法人税等合計	465,548	408,119
四半期純利益	766,275	665,883
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	766,275	665,883

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)
四半期純利益	766,275	665,883
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	154,957	1,669
退職給付に係る調整額	6,147	7,398
その他の包括利益合計	161,104	9,067
四半期包括利益	927,379	674,950
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	927,379	674,950
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	18,565,351	25,842,810	6,197,759	3,626,152	268,463	54,500,538	—	54,500,538
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	452	3,480	228,463	14,862	719	247,978	△247,978	—
計	18,565,803	25,846,291	6,426,223	3,641,014	269,182	54,748,516	△247,978	54,500,538
セグメント利益 又は損失(△)	514,748	765,021	311,889	153,708	△64,517	1,680,849	△453,913	1,226,936

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△453,913千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△439,536千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	18,787,846	29,656,089	6,530,601	3,511,284	345,476	58,831,298	—	58,831,298
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,114	4,499	381,938	16,022	716	404,290	△404,290	—
計	18,788,961	29,660,588	6,912,539	3,527,306	346,193	59,235,589	△404,290	58,831,298
セグメント利益 又は損失(△)	460,265	837,735	151,810	103,215	△24,576	1,528,450	△452,237	1,076,213

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△452,237千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△452,378千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第3四半期連結累計期間（自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	
一時点で移転される財又はサービス	18,486,860	25,680,092	6,125,988	3,624,352	268,463	54,185,758
一定の期間にわたり移転される財 又はサービス	—	132,610	69,521	1,800	—	203,931
顧客との契約から生じる収益	18,486,860	25,812,703	6,195,509	3,626,152	268,463	54,389,690
その他の収益	78,491	30,107	2,250	—	—	110,848
外部顧客への売上高	18,565,351	25,842,810	6,197,759	3,626,152	268,463	54,500,538

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	
一時点で移転される財又はサービス	18,712,754	29,489,175	6,464,510	3,509,484	345,476	58,521,401
一定の期間にわたり移転される財 又はサービス	—	137,500	63,841	1,800	—	203,141
顧客との契約から生じる収益	18,712,754	29,626,675	6,528,351	3,511,284	345,476	58,724,542
その他の収益	75,092	29,414	2,250	—	—	106,756
外部顧客への売上高	18,787,846	29,656,089	6,530,601	3,511,284	345,476	58,831,298